

別表（５）

別海町水道事業 経営指標の推移（1/2）

区 分		比 率			年鑑指標	算 式	説 明
		平成25年度	平成26年度	平成27年度			
収 益 性	総収益対総費用比率	150.52	129.85	132.92	108.41	総収益／総費用×100	費用に対する収益の割合を示す。100%以上比率の大きいほど良い。
	営業収益対営業費用比率	172.94	170.19	170.02	101.80	営業収益／営業費用×100	業務活動の能率を示す。100%以上比率の大きいほど良い。
	総資本利益率	1.09	1.62	1.81	0.89	当年度純利益／{(期首総資本＋期末総資本)×1/2}×100	投下資本に対してどれだけ純利益を上げたかという資本効率をみる。比率が大きいほど良い。
	自己資本利益率	1.23	1.93	2.13	1.23	当年度純利益／{(期首自己資本＋期末自己資本)×1/2}×100	投下した自己資本の収益力をみる。
	自己資本回転率	0.03	0.06	0.06	0.11	営業収益／{(期首自己資本＋期末自己資本)×1/2}	自己資本の活動能率を示し、自己資本の活動が活発に行われているかをみる。回転は大きいほど良い。
	固定資産回転率	0.04	0.06	0.06	0.09	営業収益／{(期首固定資産＋期末固定資産)×1/2}	営業収益の固定資産に対する割合を示し、固定資産への過大投資がないかをみる。回転は大きいほど良い。
資産の 状態	企業債償還元金対減価償却額比率	67.31	77.03	80.80	85.72	建設改良のための企業債償還元金／(減価償却費－長期前受金戻入)×100	企業債償還元金はその補てん財源である減価償却費に占める割合を示す。比率は小ほど良い。
財 務 比 率	流動比率	25,583.93	1,944.89	1,808.76	386.07	流動資産／流動負債×100	1年以内に現金化できる資産と、支払わなければならない負債とを比較するものである。流動性を確保するためには、流動資産が流動負債の2倍以上あることが望まれるので、理想比率は200%以上である。
	当座比率	25,580.30	1,944.63	1,808.52	375.58	(現金預金＋未収金)／流動負債×100	短期的な支払能力を判断するもので、現金預金及び容易に現金化しうる未収金などの当座資産が流動負債の何倍かを表した指標。100%以上が理想で、比率は大きいほど良い。
	現金預金比率	25,450.04	1,931.60	1,783.60	340.14	現金預金／流動負債×100	流動負債に対する現金預金の割合を示す比率で、20%以上が理想値とされている。
	負債比率	11.76	17.93	16.70	52.77	負債／自己資本×100	負債を自己資本より超過させないことが、健全経営の第一義であり、100%以下を理想とする。
	自己資本構成比率	89.47	84.80	85.69	62.86	自己資本／総資本×100	総資本の中に占める自己資本の割合をみる。比率は大きいほど良い。
	固定負債構成比率	10.47	14.05	13.13	33.78	固定負債／総資本×100	総資本の中に占める他人資本の割合をみる。比率は小さいほど良い。
	固定比率	95.52	91.45	91.83	138.41	固定資産／自己資本×100	固定資産がどれだけ自己資本によって調達されているかをみる。100%以下が望ましい。比率は小さいほど良い。
	固定資産対長期資本比率	85.52	78.45	79.62	90.03	固定資産／(資本金＋固定負債＋繰延収益)×100	固定資産が流動負債によって調達されていないかをみる。100%以下が望ましい。100%を超えた場合は、固定資産に対して過大投資が行われたものといえる。

「総資産＝固定資産＋流動資産＋繰延資産」、「総資本＝負債＋資本」、「自己資本＝自己資本金＋剰余金＋繰延収益」、「負債＝固定負債＋流動負債」  
 「総収益＝営業収益＋営業外収益＋特別利益」、「総費用＝営業費用＋営業外費用＋特別損失」、「営業収益＝営業収益－受託工事収益」、「営業費用＝営業費用－受託工事費用－長期前受金戻入」  
 年鑑指標：地方公営企業年鑑「平成27年公表・平成26年度経営規模別実績数値」（給水人口1.5万人以上3万人未満の同規模事業体の平均値）

別表（5）

別海町水道事業 経営指標の推移（2/2）

区 分		比 率			年鑑指標	算 式	説 明
		平成25年度	平成26年度	平成27年度			
構 成 比 率	固定負債構成比率					固定負債／総資本×100	固定負債構成比率、流動負債構成比率及び自己資本構成比率は、総資本（資本＋負債）と、これを構成する固定負債・流動負債・自己資本（自己資本金＋剰余金＋繰延収益）の関係を示すもので、自己資本構成比率が大であるほど（50%以上が望ましい）経営の安全性は大きいものといえる。なお、三者の比率の合計は100となる。
	流動負債構成比率	0.06	1.15	1.18	3.36	流動負債／総資本×100	
	自己資本構成比率						
	固定資産構成比率	85.47	77.55	78.68	88.76	固定資産／総資産×100	固定資産構成比率及び流動資産構成比率は、それぞれ総資産に対する固定資産・流動資産の占める割合であり、固定資産構成比率が大であれば資本が固定化の傾向にあり、また、流動資産構成比率が大であれば、流動性は良好であるといえる。なお、両者の比率の合計は100となる。
	流動資産構成比率	14.53	22.45	21.32	11.24	流動資産／総資産×100	

「総資産＝固定資産＋流動資産＋繰延資産」、「総資本＝負債＋資本」、「自己資本＝自己資本金＋剰余金＋繰延収益」、「負債＝固定負債＋流動負債」

「総収益＝営業収益＋営業外収益＋特別利益」、「総費用＝営業費用＋営業外費用＋特別損失」、「営業収益＝営業収益－受託工事収益」、「営業費用＝営業費用－受託工事費用－長期前年鑑指標：地方公営企業年鑑「平成27年公表・平成26年度経営規模別実績数値」（給水人口1.5万人以上3万人未満の同規模事業体の平均値）」